

接続助詞「ながら」の意味論*

7B-1

木曾宏顕

森辰則

中川裕志

横浜国立大学 工学部

1 はじめに

文A,Bを接続助詞「ながら」でつないだ文「AながらB」には、AとBが同時進行的に起こっていることを表すものと、AであるにもかかわらずBという逆接的意味合いを生じるものと二通りあることが知られている(寺村1992; 森田1980)。

本稿では、「AながらB」がどちらの解釈になるのかを文Aの持つ性質により決定する方法について論じ、特に取り立て助詞との関係について見ていく。

2 「同時」, 「逆接」について

以下で述べるように、用言の時間的性質が「AながらB」の解釈に影響を与えるようなので、まずその性質について見ていく。

2.1 用言の時間的性質

用言の時間的性質を表現するために、用言が記述する事象が生起している時間を表す視野を用いる(郡司1988)。

例えば、(1)の時間的解釈には、(1')のようにa.「着る動作」を表す基本視野、b.「着用中」を表す結果視野、c.「以前着たことがあるという経験」を表す経験視野の三通りの視野が考えられる。

(1) 彼はあのスーツを着ている。

- (1') a. 彼は今、懸命にあのスーツを着ている。
b. 彼は昨日からずっとあのスーツを着ている。
c. 彼は二年前にあのスーツを着ている。

次に、この視野を使って「同時」、「逆接」を定義していく。

2.2 「同時」の定義

(2) そこらを歩きながらお話をしましょう。

このようにAの用言が基本視野を表して「AながらB」に同時進行の読みが生じる時の「ながら」の解釈を本稿では「同時」と表す。

2.3 「逆接」の定義

(3) 同点で迎えた八回、二死をとりながら王・長島に連安打された。

(3)のようにBが、Aから期待される度合いが低い事象である場合、つまり、~にもかかわらずという逆接的意味合いが生じる時の「ながら」の解釈を本稿では「逆接」と表す。

2.4 「同時」かつ「逆接」について

「AながらB」は「同時」か「逆接」かどちらかの解釈のみをとると考えられているが、

(4) ご飯を食べながら勉強する。

という「同時」の文に取り立て助詞「も」をつけると、

(5) ご飯を食べながらも勉強する。

というように「ご飯を食べているにもかかわらず勉強をする。」という読みになり「逆接」的になる¹。

2.5 「同時」, 「逆接」の素性表現

以上のことから考えて、「ながら」の解釈を「同時」となる場合と「逆接」となる場合でそれぞれ「同時」「逆接」という、+,-の2値をとる素性で表すと良いように思われる。ここで、素性の値が+の場合はその解釈を持つ場合で、素性の値が-の場合はその解釈を持たない場合である。

そのようにすると以上見てきたものは次のように割り当てられる。

- 2.2の「同時」は、[+同時,-逆接]。
- 2.3の「逆接」は、[-同時,+逆接]。
- 2.4の「同時」かつ「逆接」は、[+同時,+逆接]²。

3 視野による制約

視野が決まれば「ながら」の読みはほぼ決まる。視野による「ながら」の制約として、「AながらB」について以下のようなものが検討されている(中川 投稿中)。

制約 I Aの動詞に「い(る)」が付いている時、また主語がAとBで違っている時、「ながら」の解釈は[-同時,+逆接]となる。

制約 II (動作性) Aの動詞部が基本視野(動作性)を表している場合、「ながら」の解釈は[+同時,-逆接]となる。

制約 III (状態性) Aの動詞部が結果視野、または経験視野(状態性)を表す場合、「ながら」の解釈は[-同時,+逆接]となる。

また、Aの述部が名詞、形容詞、形容動詞の時も状態性を示していて、「ながら」の解釈は[-同時,+逆接]となる。

¹「も」が「~もまた」という共立的対比の意味の時は「食べている時も新聞を読むし、電車に乗っている時も読む。」というような解釈になるが、ここでは強調する意味の「も」について考えている。

²この解釈については4章で詳しく述べる。

4 「ながら」 + 取り立て助詞

「～る」形の動詞、すなわち相が形態的に明示されていない動詞の場合は用言の形態からだけでは「同時」、「逆接」の判断ができない。しかし以下で述べるように、取り立て助詞が「ながら」の後ろに隣接した時に決定できる場合があり、この場合は形態的に決まる。

そこで「ながら」 + 取り立て助詞について以下見ていく。ここで、2.4で見たように [+同時, +逆接] は取り立て助詞がついた時起こりやすく、「ながら」自身と取り立て助詞自身の効果を今のところ完全に分離しきれていないため、ここではまとめて「ながら + 取り立て助詞」の解釈として扱うが、「ながら」の前の文の用言の視野との関係は以下のように十分考察可能である。

4.1 取り立て助詞

寺村(1991)による14種類の取り立て助詞のうち、「ながら」に後続しにくい「すら」、「まで」、「ばかり」を除いた11種類の取り立て助詞が「ながら」に後続する場合の解釈について、視野を考慮して以下観察をしていく。

4.2 観察

- 人間は、歩き ながらは 走れない。
 - 基本視野のときのみ出現。 [+同時, -逆接].
- 「ながらも」

「も」には数量、程度についての評価、その多少、高低を強調する「強調のも」と「～もまた」という共立的対比を意味する「累加のも」がある。

「強調」：酒を飲み ながらも 討論する。

 - 基本視野のとき [+同時, +逆接].
 - 結果視野、経験視野のとき [-同時, +逆接].

「累加」：歩き ながらも 本を読む。

 - 基本視野のときのみ出現。 [+同時, -逆接].
- 歩き ながらさえ 本を読む。
 - 基本視野のときのみ出現。 [+同時, +逆接].
- 歩き ながらだって 本を読む。
 - 基本視野のときのみ出現。 [+同時, +逆接].
- 酒を飲み ながらしか 愚痴をこぼさない。
 - 基本視野のときのみ出現。 [+同時, -逆接].
- ラジオを聞き ながらなんて 勉強できない。
 - 基本視野のときのみ出現。 [+同時, -逆接].
- 会議は、酒を飲み ながらなど するものではない。
 - 基本視野のときのみ出現。 [+同時, -逆接].
- スポーツは、タバコを吸い ながらなんか できない。
 - 基本視野のときのみ出現。 [+同時, -逆接].

- 「ながらも」

「でも」には、「譲歩のでも」と「提案のでも」がある。

「譲歩」：歩き ながらも 本が読める。

 - 基本視野のときのみ出現。 [+同時, +逆接].

「提案」：タバコを吸い ながらも 考えよう。

 - 基本視野のときのみ出現。 [+同時, -逆接].
- ビールは、枝豆を食べ ながらこそ 飲むものだ。
 - 基本視野のときのみ出現。 [+同時, -逆接].
- コーヒーを飲み ながらだけ タバコを吸う。
 - 基本視野のときのみ出現。 [+同時, -逆接].

以上をまとめると次のようになる。

「同時」の解釈のときのみ出現するもの

「ながらは」「ながらしか」「ながらなんて」「ながらなど」「ながらなんか」「ながらこそ」「ながらだけ」

基本視野を表しているもののみ出現して逆接性を加え [+同時, +逆接] になるもの

「ながらさえ」「ながらだって」

また「ながらも」、「ながらも」は、「も」、「でも」の意味がそれぞれ二つずつあるのですぐにはその解釈が決まらないが、「も」、「でも」の意味が明らかになった時点でその解釈の制限、決定が行なわれる。

5 おわりに

「ながら」の二種類の解釈と取り立て助詞の関係について分析した。今後は、取り立て助詞が文A、Bの中に入った場合やその他形態より決定できる場合について検討していく。

参考文献

- 郡司隆男. 1988. 句構造文法の形式化と機械処理との関連性. 「言語情報処理の高度化」研究報告会発表資料. 昭和63年度文部省科学研究費補助金特定研究(1) 言語情報処理の高度化のための基礎的研究.
- 寺村秀夫. 1991. 日本語のシンタクスと意味 III. くろしお出版.
- 寺村秀夫. 1992. 寺村秀夫論文集 I — 日本語文法編 —. くろしお出版.
- 森田良行. 1980. 基礎日本語 2, 角川小辞典, 第8巻. 角川書店.
- 中川裕志, 今仁生美, 郡司隆男, 原田康也, 森辰則. 投稿中. 「ながら」について議論しながら. 日本認知科学会第10回大会発表論文集. 日本認知科学会.